

3月23日にリアス線が開通
三陸鉄道の久慈駅長

きらり
人輝く

支援者への恩返しのために運行

3月23日に久慈駅から盛駅までが一つにつながった三陸鉄道。久慈駅の駅長を務める畑田健司さんに、三陸鉄道に勤めたきっかけや東日本大震災からの復興の軌跡を聞きました。

■三鉄で働くきっかけ

三陸鉄道は、昭和59年4月に開業。私は、同じ年の7月に入社しました。高校を卒業して市役所の臨時職員をしていたのですが、縁あって声をかけていただき、それからずっと三鉄で働いています。

■昔の思い出

同年代の職員がとても多く、すごく楽しくて、休日でも会社に遊びに来ていました。昔は、宿直もあり、肉体的には疲れることもありましたが、本当に楽しい職場でした。

■震災発生時

震災の時は、休日で市外にいました。すぐに久慈に戻ってきて駅に行くと、みんな避難していました。被害の状況が伝わってきて、社員みんな寝る間も惜しんで頑張りました。本音を言うと、そのときは復旧でき

るとは思っていませんでした。

■復旧・復興の軌跡

震災から5日後、久慈～野田間で運行を再開したのですが、沿線の人たちからとても感謝されました。これがマスコミを通じて情報発信され、思った以上に全国からさまざまな支援をいただきました。震災でなくなった線路がつながったときは、感動して体が震えたのを覚えています。震災を経験して、自分の仕事が皆さんのために意味のある仕事だと誇りを持つことができました。

■リアス線開通の期待

今回の開通で、あまちゃん放映と同じように、三陸鉄道は注目されると思います。三陸鉄道は、社員のものではなく、支援した人から預かっている鉄道。恩返しできるように、これからも頑張っていきます！



Name
畑田 健司 さん
はたけだ・けんじ(小久慈町・53歳)

Profile
三陸鉄道株式会社
久慈駅長兼指令長



釜石駅からの列車をお出迎え



宇部町民小倉山登山

市民

センター
だより

宇部市民
センター
☎ 56-2706

小田為綱が愛した山

小倉山登山は、登山コースの下刈り、危険箇所へのロープの設置など、地元ボランティアの協力によって実施されている町民行事で、今年で第18回目を迎えます。標高514mと高い山ではありませんが、奇麗な独立峰で頂上付近からの眺めも絶景です。下山後は、安全下山をお祝いして、子どもたちによる餅つきがあり、登山者全員の心を満たしてくれます。

この美しい山は、明治16年(1883)に宇部村(現在の宇部町)出身の偉人「小田為綱」が、地元の代表となって官有地化に反対して起こした「小倉山入会地争議」の舞台となった山です。小田為綱をはじめ宇部の人が、いにしえより愛し続け、守ってきた山を、皆さんも一緒に登ってみませんか。

- ▶日時…4月28日(日)9時～13時
- ▶集合場所…宇部市民センター集合(9時集合)
- ▶送迎…宇部市民センターから登山口までバス送迎
- ▶持ち物…雨具、防寒着、水、昼食、おやつなど
- ▶申込期限…4月22日(月)

My life
in Kuji



ロバート・フィリス さん
インディアナ州・24歳 / 夏井小、久喜小、小袖小、宇部中、山形地区の小中学校を担当

Earth Day and Arbor Day

4月は環境保全に対する意識を高める月で、アーバー・デーやアース・デーなどがあります。1970年にスタートしたアース・デー(地球の日)は、毎年4月22日がその日とされ、現在は193カ国を超える世界中の国々で環境保全を推進する様々なイベントが行われます。アーバー・デーは、1870年代初旬に始まった個人やコミュニティに対して植樹を促す「植樹祭」です。通常4月の最終金曜日に行われ、2019年は4月26日になります。私が小中学生の頃は、学校で植樹をしたり、リサイクル大会をしたりしました。環境保全に対する個々の小さな活動はそれほど効果がないように思えるかもしれませんが、多く集まれば十分な影響を与えることができます。環境の改善のために必要なのは個々の行動を変えることであり、これらの祝日は、我々がより良い地域を作るための一歩を踏み出さなければならない、ということをお願い出させるいい機会だと思います。

協力隊
つうしん

木村 圭次 さん
(きむら けいじ・50歳)
2016年着任。京都市出身。侍浜市民センター所属。地域住民との徹底交流を通じた地域づくりサポートを推進する

侍浜市民センター前広場の大樹



ありがとう 侍浜町の皆さん

まもなく平成の時代が終わろうとしています。侍浜町での地域おこし協力隊としての活動も4月17日で終わりを迎えます。京都から来た、右も左も分からない私を侍浜町の皆さんは、とても暖かく受け入れていただきました。料理のできない私に、食事を持って来ていただいたり、お酒の席に誘っていただいたり、うれしく楽しい3年間でした。果たして侍浜町の地域づくり・地域おこしを私は、しっかりできたであろうか? やはり3年間では少し足らなかったと感じています。着任当初から言い続けてきた協力隊としての理念、1年目は土壌慣らし・2年目に種をまく・3年目に芽が出る・そして卒業後に花が咲く。地域の人から、「京都から木村って人が来て、こんなとこ言っていた、あんなことをやっていた」と思い返してもらい、継続して地域づくりをしたら、地域おこし協力隊としての成功だと思います。すきな侍浜を、すきな侍浜に! ありがとう侍浜町!

集まれ!
元気の輪

久慈絵手紙クラブ「どっと混む」

代表: 三上 初江さん 連絡先: ☎ 55-2731
活動日: 第1・3木曜日 13時30分～15時
活動場所: 中央市民センター



月1回先生が指導します



作品を囲みメンバーで記念撮影

久慈地域に住むメンバー12人で絵手紙づくりをしている団体です。絵手紙とは、はがきや半紙などに、青墨や顔彩で花や野菜など身近にあるものを書き、贈る相手に伝えたい気持ちを短い言葉で添えるもの。絵手紙の魅力は、受け取った人に気持ちが伝わることです。きれいに書くことを目的にするのではなく、自分の思いを込めて描くと、自分らしい良い作品になります。作品は、市の芸文祭や中央市民センターの展示に出品しています。メンバーは随時募集中。皆さんも、思いが伝わる自分らしい絵手紙を、一緒に描いてみませんか。

●地域おこし協力隊…移住定住促進を目的に、都市部からの移住者に対して市が委嘱。地域おこしの支援(地域行事やイベントの応援、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR、情報発信など)や農林水産業への従事、住民の生活支援など「地域協力活動」を行います。

市内の小・中学校で英語を教えているA.L.T(外国語指導助手)の皆さんが、久慈で生活して感じたことなどを紹介するコーナーです。